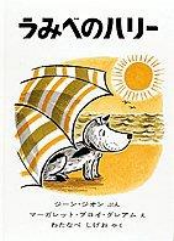
４－１ 『うみべのハリー』



ジーン・ジオン　作
マーガレット・ブロイ・グレアム　絵
わたなべ　しげお　訳
福音館書店　1967年

犬のハリーは家族と海へやってきて、海藻を頭からかぶってしまいます。人々は「おばけだ！」と大騒ぎになりますが・・・。

（堀口　美樹）

４－２ 『やさいのおしゃべり』

泉　なほ　作
いもと　ようこ　絵
金の星社　2005年

れいちゃんの家のれいぞうこに、れいちゃんがきらいなきゅうりがやってきた。いつ食べられるかドキドキなやさいたち。次に食べられるのはだれかな。

（遠藤　典子）

４－３ 『ねこのはなびや』

渡辺　有一　作/絵
フレーベル館　2012年

しろねこぐみとくろねこぐみととらねこぐみのはなびやが、わざとどきょうをきょうそうする。さて、ゆうしょうはどのくみかな？美しいはなびが絵本いっぱいにひろがります。

（唐　勝子）

５－１ 『えがないえほん』

B・J・ノヴァク　作
おおとも　たけし　訳
早川書房　2017年

あらすじはありません。ひたすら口に出すのが困る言葉（へんな言葉）を読み上げ、困りながらお話しました。

（藤田　佳子）

５－２ 『名前のない人』

C・V・オールズバーグ　作/絵
村上　春樹　訳
河出書房新社　1989年

お百姓のベイリーさんの助けた人はとてもかわった人だった。けれども、ベイリーさん一家とすっかりうちとけ仲良くなった。でもある日、男は自分の本当の仕事を思い出して・・・。

（上野　邦晴）

５－３ 『ひみつのビクビク』

フランチェスカ・サンナ　作
なかがわ　ちひろ　訳
廣済堂あかつき(株)　2019年

ちいさなビクビクは、わたしだけのひみつのともだち。いつもは、わたしをまもってくれるのですが・・・。すこしゆうきがでてくるおはなしです。

（川合　千珠）

６－１ 『ちっちゃいこえ』（紙芝居）

アーサー・ビナード　作
丸木　俊・丸木　位里「原爆の図」より　絵
童心社　2019年

「原爆の図」の絵よりその中の部分を拡大して、猫を主役にストーリーが生まれた。原爆の恐ろしさを小さな命の大切さを強調して、語りかけてくる。

（廣吉　和子）

６－２ 『ヤクーバとライオン　Ⅰ勇気　Ⅱ信頼』

ティエリー・デデュー　作/絵
柳田　邦男　訳
講談社　2008年

アフリカの少年と傷ついたライオンとの出会い本当の勇気とは・・・時がたち、再び出会った両者共に相手の命を守りあう信頼の話です。

（伊藤　桂子）

６－３ 『ひさの星』

斉藤　隆介　作
岩崎　ちひろ　絵
岩崎書店　1972年

はずかしがり屋で無口なひさが、どうして川に流され星になったのか。それがこのお話です。本物の優しさをひさが教えてくれます。

（下田　毬子）

次回の読み聞かせは　10月2日（水）8：25～8：40です。
お楽しみに！
なお、保護者のみなさんも見学ができます。
ぱたぽん通信が本選びの参考になればうれしいです♪

学校図書館にある本はタイトル横に★があります